

企業名： スルガ銀行

レポート名： 「統合報告書 2022」

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

理解できる。計画”Re:Start 2025”を掲げ、顧客に満足させ、社員もやりがいを感じることでできる新しい形態を創出する事、“持続可能な新しいビジネスモデル”を展開するために様々な施策を展開している。それは、企業理念の浸透、コーポレートガバナンスの高度化、強固なコンプライアンス体制の構築、顧客本位の業務運営の表現、金融犯罪防止への取組強化、社員の成長を支援する人材育成体系、ワークライフバランス施策の充実、ダイバーシティや障がい者雇用の推進、社員の心身の健康向上への取組み、社員のモチベーション向上への取組み、リテールバンキングを通じた多様な顧客ニーズへの対応、地域の企業や事業主へのソリューションの提供、自治体とのパートナーシップによる地域活性化貢献、事業継続計画の取組み、未来を担う子どもたちの文化、芸術やスポーツのサポート、地域の環境保全活動への参加や協力、手続や業務のデジタル化推進による環境負荷の低減や、店舗設備等の環境対応の推進をすることだ。また、多様性への理解が求められる現代で多様な価値観を尊重することで組織の競争力につながる。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

スルガ銀行の強みは海外送金サービスとペーパーレスによる利便性である。この会社は、Queen Bee Capital 株式会社と提携し、インターネットで完結可能な海外送金サービスを行っている。これは、従来の銀行窓口での送金よりも安価で手続きも容易である。さらに、24時間手続きができるため、とても利便性が高い。ペーパーレス化は、手続きを電子化することで行っている。これは、環境負荷の低減に加え、顧客のための利便性や社内業務効率化を目的としている。主に、インターネットバンキングやスマホアプリ「スルガ銀行 CONNECT」を介した非対面取引の拡大、デジタル通帳の積極的なご案内、新規口座開設、カードローンの申し込み手続きのペーパーレス化、社内の各種申請手続きの電子化、TV 会議システムやファイル共有・共同編集の積極的な活用によるコミュニケーションのオンライン化・紙資料保存を不要とするルール改定によって行われている。海外送金サービスとペーパーレス化にスルガ銀行の競争優位性があると考えられる。これらの情報を大々的に公表することで他社との違いを潜在顧客に明白に示すことが可能になるだろう。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

以上の競争優位性に持続性があると考え。スルガ銀行の「統合報告書 2022」の 25 ページに示してあるように、持続可能な社会の実現及び企業価値の維持・向上に向けて当社グループが優先的に取り組むべき重要課題は、盤石なガバナンス基盤の確立、社員が活躍できる環境の設備、サステナブルな地域経済・社会の構築、そして環境保全への貢献である。以上の競争優位性である海外送金サービスとペーパーレス化は重要課題であるサステナブルな地域経済・社会の構築と環境保全への貢献の分類に帰属しているため、競争優位性に持続性があるだろう。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思う。この会社は、社員にとっても「あってよかった、出会えてよかった」と思われる存在になる事を目指しており、社員がやりがいや達成感を日々感じることができる環境を整備することに注力している。知見を高めるための全社員向け継続研修、階層別研修、各本部主催の業務別研修、評価者研修、外部研修の活用を行い社員それぞれが持つキャリアビジョンに近づく後押しをするような環境を整えている。さらに、多様化する社会で女性社員が活躍する職場を目指すため、女性社員の長期的なキャリア形成支援や年に一度のキャリアアップ支援も行っている。育児休業制度も拡充しており、女性社員だけでなく男性社員の育児休業取得も可能で、休業中には職場復帰が円滑に行えるようインターネットでの職場復帰プログラムが提供されている。以上により、現在働いている社員が働きやすい職場の環境づくりにしようという姿勢は大いに感じた。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

この統合報告書は、全体的に必要な情報がまとまっていて写真も多く用いられており、わかりやすい報告書となっていた。しかし、全ての情報において同じ容量で記載されていたため何に留意すべきか分かりにくい場面もあった。そのため、重要点はより分かりやすくする必要があると考え。また、ページ数が多いため、記載内容をもう少し簡潔にするべきであると考え。